

医療 最前線

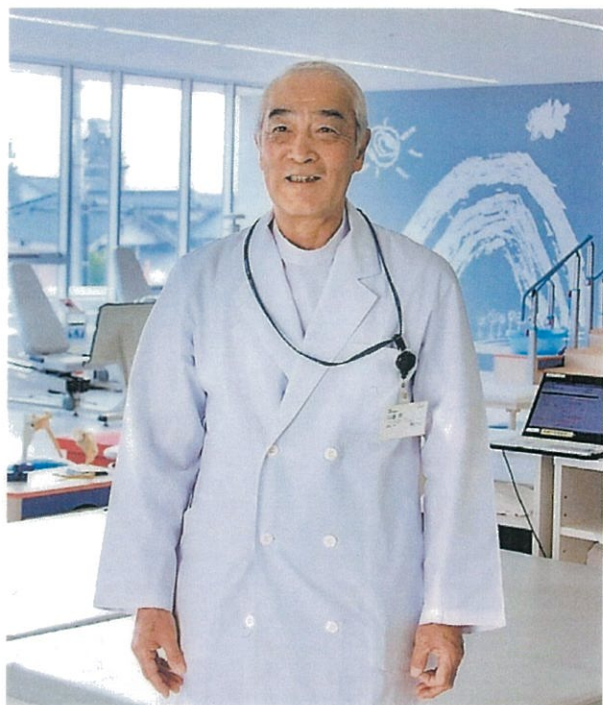
▶ 113

高齢化社会が進む中、健康寿命をいかに増進するかが社会的な問題となっている。西能クリニックの山田均院長は「まずしっかりと歩けるように、手や足などの健康を維持することが重要です」と語る。

歩くことができなければ寝たきりになってしまつて、認知症のリスクも高まる。近年は県内でランニングやウォーキングイベントが多数開かれるようになった。けがの治療だけではなく、けがをしないような運動の方法も指導には欠かせない。

山田さん自身もスポーツドクターである。「自分の体の

五省会西能病院② 西能クリニック院長 山田均さん (70)



クリニックの取り組みを紹介する山田さん
—富山市の西能クリニック

やまだ・ひとし 東京都墨田区出身。千葉大医学部を卒業後、富山医大整形外科助手や高岡市民病院副院長などを歴任し、2012年から現職。

健康は歩行から

状態を把握し、それに応じた生活を送ることが健康には不可欠です」と強調する。ランニング障害や投球障害の改善に取り組むだけではなく、マラソン大会に参加するランナーを対象とした講習会といった、地域のニーズに即したサービスへの提供を始めている。

外来休みは年3日

西能クリニックでは1988(昭和63)年以来、元日とお盆の8月15日、創立記念日の春分の日以外は外来患者を毎日診察する。けがは突発的なもので、いつでも対応できるようにしたいという、五省

会初代理事長の西能正一郎氏の強い思いから始まった。

平日は約400人、休日は200〜300人が受診する。西能クリニックは正式名称を「整形外科センター西能クリニック」としている。整形外科センターを名乗るのは、専門医としての使命を肝に銘じ、けがをした人がいつでも駆け込める場所でありた

いこの思いからだ。

毎日訪れる患者が治療に専念できる環境も大切となる。

医師が患者と向き合い、質の高い診療をするため、医療事務作業補助者を置き、案内係の人数を増やした。クリニックの2階は全てリハビリテーションスペースとなっており、柱のない広い空間でリハビリを受けられる。山田さんは「子どもからお年寄りまで、みんなが元気に運動を楽しみ、長生きしてほしい」との思いを胸に毎日の診療に当たる。